



2018年4月25日

RPA (Robotic Process Automation) の本格導入について

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、業務効率化に向けた取組みとして、2018年4月25日（水）より、RPA (Robotic Process Automation) を本格導入しました。

RPAとは、ロボット技術を活用したソフトウェアにより、定型作業を代替する業務自動化の仕組みのことです。当行は、銀行業務におけるRPAの導入可能性を検証するため、これまで定型作業が発生する業務を対象に試行を重ね、今回、公的機関からの取引照会業務においてRPAを導入することとしました。

本業務では、RPAの導入と一部業務プロセスの見直しにより、年間3,680時間分の作業量削減と業務の精度向上が期待できます。今後は効果検証を行いながら、他の本部業務にも順次導入を進めていく方針です。

今回のRPA導入の概要は下記のとおりです。

当行は、引き続き業務プロセスの抜本的な見直しやRPAを含めたIT技術を活用し、業務効率化を促進するとともに、そこで捻出した時間や人員を用いて、お客さまとの接点拡大や商品・サービス水準の向上に努めてまいります。

記

使用ソフト	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ提供「WinActor」
対象業務	公的機関からの取引照会業務 ※税務署などからの依頼に基づく取引履歴照会などがこれにあたります。
期待される効果	・年間3,680時間分の作業時間削減 ・人為的ミスの削減による業務の精度向上

以上